## TOPICS　ななな山で出会った宝ものたち

青山学院大学生と共にななな山を訪れるようになって 3 年が経ちました。思い返せば、新型コロナウィルスが猛威を振るっていた 2020 年秋ごろ、低迷するボランティア活動を再稼働させるべく、どこか東京郊外の野外で学生たちがボランティア活動できるフィールドはないかを探し求めていた中、地域ボランティア活動のコーディネーターさんからななな山をご紹介いただいたのがきっかけです。そして同年 12 月に十数名の学生を連れて活動したのが始まりです。以来、私自身がななな山のファンとなり、毎回四季折々美しいななな山を訪れるのを楽しみにしています。

時間の経過とともに、ななな山との関わり方もそれなりに変化してきたように感じます。毎回、お世話になる緑地の会の皆さんのななな山を愛でる想いに触れる度に、ななな山という豊かな生態系が守られているのは単に決まった工程をこなすだけではなく、各々の得意分野を活かして活動するコミュニティだからなのだと感じるようになりました。

学生たちがななな山を訪れる意義はたくさんあります。昨今では都市部において自然環境に身を置く機会が少なく、田舎暮らしに興味があってもまだまだ山村留学や地方移住は学生にとってハードルの高い選択です。4 年間という限られた学生生活の中で、一人でも多くの青学生たちにななな山の魅力を感じてもらい、グリーンインフラの重要性について考えてもらうきっかけを与えたいと考えています。そのために学生たちにはななな山との関りを単発で終わらせるのではなく、より継続的に関わってもらう必要があると感じています。

そこで私なりに昨年よりプログラムの位置づけを以前の体験プログラムからより深くななな山と関り、緑地の会の皆さんと交流するプログラムというように変えてきました。その思いを学生たちに伝えるのは容易ではありませんが、中には初期メンバーとしてななな山を訪れたことがきっかけとなり現在の就職先に繋がったり、ななな山の宝もの（農作業や竹細工など）にはまってくれる学生も出てきました。今年は留学生の参加者が多かったのも印象的でした。このように国籍問わず若者たちに日本に昔からある地域の風習を学んでもらえるのもななな山の醍醐味です。これから見頃となるななな山の紅葉を愛でに再訪したいと思います。

最後にボランティア活動を通じてななな山が大好きになったとう学生からの感想文で締めくくらせていただきます。

約半年間 4 回ほどボランティアに参加させていただきました阿部夏帆です。

ななな山緑地の会の皆さんの活動に参加させていただく中で様々な気づきや発見がありました。そもそも里山が人の手によって作られた第二の自然である、と言うことを知らなかったので始めはすごく歩きやすい山だなと思っていました。活動の中でななな山緑地の会のみなさんが枯れた木を伐木したり草を刈ったり希少な植物を管理しているのを見て、里山が綺麗な状態で保たれているのは人の行動があるからだということに気づき、山と人との関係が今でも続いている場所でボランティアをして私も落ち葉掃きや草刈りなどに参加できて良かったなと思っています。

私の家や大学の周りには自然がある場所が少ないので参加する際に乗るバスの中では自分が里帰りするような気分になって毎回ワクワクしていました。ななな山緑地の会のみなさんもメカイの作り方や里山の植物・生物のことについて教えてくださって毎回学ぶことがたくさんありました。

文責：青山学院大学　シビックエンゲージメントセンター助手／コーディネーター　佐藤亜希

参加された学生の皆さん

## 今(2023 年)のなな山

現在、なな山はナラ枯れによって、多くの大系木が枯れてしまいました。9 月 10 日(日)定例活動日に西の山の様子を見に行くと、枯木となった木から直径 20 ㎝以上、長さ 3 メートルもある大枝が折れて落下していました。どの枯木もいつ枝が落下するかわからないため、山に入れず草刈りもできない状況です。

半年ほど、人の手を入れていない山は、下草が繁茂していました。そんな中ヒヨドリバナが背を伸ばし、たくさんの花をつけて咲いていました。

ナラ枯れによって枯れた木

枯木からの落枝

下草の中にヒヨドリバナが咲く

## 18 年前のなな山

なな山の倉庫の中から手書きの２００５年の活動記録が出てきました。その中にテーブルのあるあたりで作業する写真と、畑の側溝沿いに植樹をした写真があったので、現在と比べてみることにしました。

少しわかりづらいですが、テーブルの辺りのクヌギは太く成長していますし、植樹した場所は当時、何もない（畑もトイレもない）場所でした。この様に比較してみると、これまでの 20 年の活動が今に繋がっていることを改めて感じることができます。

２００５年

テーブル横での作業

２０２３年

クヌギが大きく成長した

植樹した様子

畑とクヌギの苗床ができた

## 「なな山だより」が多摩市行政資料室に保管決定！

このたび「なな山だより」が、多摩市の行政資料室に保存されることになりました！

図書館からは多摩の地域で活動してきた歴史の記録として残したいとのこと。現在はカラーコピーされた「なな山だより」が、ファイルに綴じられ誰でも閲覧できます。将来的にはハードカバーのついた本に製本され、永久保存されます。

多摩市行政資料室　多摩市役所　第二庁舎　１階

行政資料室入口

## 「牧野富太郎展」なな山の植物標本が紹介されました！

7 月 15 日～9 月 30 日都立大学牧野標本館で「日本の植物分類学の父、牧野富太郎が遺したもの」という企画展が開催されました。

ここには博士の遺族が都立大に寄贈された４０万点の植物標本が２０年かけて整理された１６万点を核として国内外の標本館との交換、寄贈、新たなる収取されたものを合わせて約 50 万点が収蔵されています。

また市民参加による植物標本作成活動も推進され、例として２０１６年「なな山緑地の会」も約４００点の植物標本を作成収蔵したことがパネルにより展示紹介されていました。

折から朝ドラ「らんまん」の影響か連日沢山の見学者が詰めかけていました。なな山の標本が将来に向けて末永く保存され植物学に役立って欲しいものと願っています。（鎌田）

なな山紹介のパネル

企画展のポスター



### イチヤクソウ　ーー薬草　ツツジ科

梅雨の声が聞こえる頃になると、西の山の東斜面はヒヨドリバナとオカトラノオで白く彩られます。竹藪の中ではオオバジャノヒゲが白い吊鐘型の美しい花をつけ、畑の斜面にはヒメジャノヒゲが、紫色のかわいい花を見せてくれます。

もうひとつ忘れてならないのは、私達が毎年楽しみにしてるなな山の大切な花のひとつ、イチヤクソウの咲く頃でもあります。でも今年は訪れるたびにアヅマネザサをかきわけ根ぎわに出ている葉を見るのですが、花茎が立ってきません。他の所では花をつけ始め個体数も増えているのに。それでもようやく 3 株の花を見つけた時は、なな山のイチヤクソウを繋いでくれてありがとうと声をかけてしまいました。

私達が植物に手を掛けられる事は多くありませんが、せめて今ある花達とまた来年も会いたい。そう思い出来る事を探す日々です。

（湯元）

沢山咲いていた頃のイチヤクソウ

# なな山日記（活動・観察記録）

**Ｎｏ．456　2023 年 5 月 14 日(日) 曇のち雨 気温 18℃**

**参加者 14 人**

午後からの雨予報のため、活動は午前中で終了。

● **作業/ナラ枯れ枯損木の伐木 、シガラの整理、スイカの苗植え、広場のクヌギの枯れ枝伐り**

● **観察/サイハイラン、スイカズラ**

**Ｎｏ.457　2023 年 5 月 28 日(日) 曇時々晴れ 気温 23℃**

**参加者 17 人**

西の山の伐木は三本も出来て、頂上付近の南半分はほぼ安全になった

● **作業/ナラ枯れ枯損木の伐木玉切り、土手の刈草集め、梅の収穫、土手の草刈り、階段の修理**

● **観察/ヤブレガサ、ネジキ**

**Ｎｏ.458　2023 年 6 月 18 日(日) 晴れのち曇 気温 30℃**

**参加者　10 人**

シイタケ、ナメコの各ホダ木の本伏せが滞りなく終了した。

● **作業/シイタケ・ナメコホダ木本伏せと天地返し、ニラの収穫**

● **観察/ヒメヒオウギズイセン、ムラサキカタバミ**

**Ｎｏ．459　2023 年 6 月 25 日(日) 晴れ 気温 30℃**

**参加者　22 人**

熱中症になってしまうため、水分補給と休憩を適宜おこなう。

● **作業/ジャガイモ・エシャロットの収穫、クラフト**

● **観察/オカトラノオ、ナワシロイチゴ**

**Ｎｏ．460　2023 年 7 月 9 日(日) 晴れ 気温 30℃**

**参加者　20 人**

山方向に伐倒をする計画だったが、結果的に谷方向に伐倒することになった。

● **作業/ナラ枯れ枯損木の伐倒、ニラの収穫、施肥、サクラの植樹**

● **観察/ヒヨドリバナ、ヤマユリ**

**Ｎｏ．461　2023 年 7 月 23 日(日) 晴れ 気温 32℃**

**参加者　14 人**

意見交換は、有意義な意見交換の機会となった。

● **作業/伐倒木の玉切り処理、スイカの囲い柵の設置、豊ヶ丘の杜保全の会と意見交換会。**

● **観察/フヨウ、ブラックベリー**

**Ｎｏ．462　2023 年 8 月 20 日(日) 晴れ 気温 32℃**

**参加者　12 人**

今年のスイカは豊作かつ、いい出来だった。

● **作業/ウッドチッパーの試運転・騒音測定、スイカ、ニラ、シソの収穫、スイカの試食**

● **観察/ワレモコウ、ツリガネニンジン**

**Ｎｏ．463　2023 年 8 月 27 日(日) 晴れ 気温 30℃**

**参加者　21 人**

ウッドチッパーを本格稼働した。

● **作業/ウッドチッパーの稼働、スイカ、カボチャの収穫、スイカ畑の整地**

● **観察/トウネズミモチ**

**Ｎｏ.464　2023 年 9 月 10 日(日) 晴れのち曇 気温 31℃**

**参加者　16 人**

西の山を巡回し、伐木計画を再検討した。

● **作業/伐木計画の検討、ウッドチッパーの稼働、のり面ウメ周りの草刈り、クヌギの剪定、畑の耕運、ニラの収穫**

● **観察/ガガイモ、ヘクソカズラ**

**Ｎｏ.465　2023 年 9 月 24 日(日) 晴れのち曇 気温 27℃**

**参加者　13 人**

ナラ枯れ木の状態の悪化により危険な区域での活動は避ける。

● **作業/西の山落ち枝・端材の降ろし作業、チッパー処理、草刈り、ニンニク、エシャレットの植え付け**

● **観察/ヒガンバナ、キバナアキギリ**

**編集後記**

今はナラ枯れで少し荒れてしまいましたが、みなさんでがんばってまた美しいなな山を取り戻しましょう。

（Ｋ田）

ナラ枯れによる山(自然)の様子を見ていると、どういうメッセージなのかなぁと考えさせられます。(Ｉ田)

**なな山だより　第59号　2023年10月8日発行**

発　　行　なな山緑地の会

発行責任者　中山 茂樹

住　　所　東京都多摩市和田 1336-1

ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/

編集委員　鎌田 文雄　飯田 歩　武政 由希